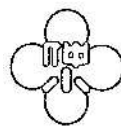


平成 28 年度
NO. 4
6 月 30 日 発行
7 月号

仲町だより



なか よく
ま なぼう
ち からいっばい
練馬区立仲町小学校

ならぬことはならぬものです

校長 矢島 直行

新年度がスタートして早いもので3か月がたち、あと3週間で夏休みです。先日行われました本年度最初の学校公開には、大勢の方にご参観をいただきありがとうございました。子供たちの学校での様子をご覧いただけたのではないのでしょうか。

5月30日から6月2日、6年生の軽井沢移動教室がありました。集団生活及び体験活動を通して子供たちは大きく成長しました。

カーリングでは、氷上の歩き方や滑り方、ストーンやブラシの扱いに戸惑うこともありましたが、練習を重ねていくと互いにゲームをすることができるようになりました。テレビで見るだけのオリンピック種目を初めて体験することができ、子供たちは大変喜んでいました。自然観察トレッキングや林業体験、東麓ノ登山ハイキングでは、日常生活では体験することのできない貴重な経験を通して、友達と協力することや自然の素晴らしさを学びました。また、食事の配膳やバスレク、キャンプファイヤーなど係の仕事を通して、責任をもって取り組むことがいかに大切に気付くことができました。それぞれの場面で子供たちの素晴らしい姿を見ることができました。

子供たちは普段の学校生活から集団生活をする上で必要なことを学んだり、身に付けたりしています。困っている友達に気付いたら声をかけるなど互いを思いやること、廊下を走らないことや人の話をしっかり聞くこと、進んで挨拶をすることなどルールを守ることです。その積み重ねが今回の6年生の移動教室で発揮されました。

子供たちが日常生活から学び成長していく姿から、以前旅行で行きました会津のことを思い出しました。江戸時代、会津藩では6歳から9歳までの子供たちは自分たちの町に子供たちだけの集まりをつくりました。その集まりを「什(じゅう)」といいます。そこでは「什の掟」があり、互いに遊びながら守らなければならない約束事を学びました。

「什の掟」とは、

年長者の言うことにそむいてはなりません

年長者にはおじぎをしなければなりません

うそをついてはなりません

ひきょうなふるまいをしてはなりません

弱いものをいじめてはなりません

戸外でものを食べてはなりません

ならぬことはならぬものです

この「什の掟」を守るために、子供たち同士が互いに注意し合っていたのです。幼いながらも「集団生活で守らなければならない約束」を身に付けていったのです。

相手を気遣い、周りに迷惑をかけないことを日常生活の中から学んでいきます。

子供たちを受けとめながらも、時には「ならぬことはならぬものです」とあるように、いけないことはいけないと厳しく子供たちに注意することができるようにしたいものです。また、子供たちにも自分のことだけでなく相手の立場を思いやり、互いに注意し合うことができるようにするとともに、注意をされた時は、素直に反省することができる心を育てていきたいです。